

# パラグアイに対する日本の開発協力（ODA）概要

## 1. ODA概要

- ・パラグアイと日本は、1919年の外交関係樹立以降、極めて友好的な協力関係を築いている。
- ・パラグアイに対する日本の経済協力は、1954年に移住事業の一環として開始した技術協力に端を発し、1959年に有償資金協力、1977年に無償資金協力を開始している。
- ・また、1978年には青年海外協力隊の派遣が開始され、これまでに教育、保健医療、農牧開発、スポーツ・文化、日系支援等の分野で、約1,800名のボランティアがパラグアイで活動し、中南米最大の派遣国である（世界第2位）。

## 2. ODA基本方針

- ・パラグアイの「国家開発計画(2014-2030)」では、①貧困削減及び社会開発、②包括的な経済成長、③パラグアイの世界参画、④行政政策・組織の強化を掲げ、従来からの貧困対策に加え、地域や世界を視野に入れた経済開発及び貿易・投資促進等を目指している。
- ・日本は、パラグアイ政府のこれらの方針を踏まえ、流通・輸出の促進、域内統合、投資誘致に向けた経済・社会インフラの整備を中心に支援することで、同国の持続的経済開発に貢献するとともに、格差是正及び貧困削減に向けてインクルーシブな社会開発を支援することとしている。
- ・なお、同支援の成果は、パラグアイにおけるSDGsの取組推進に影響・寄与することから、これらの目標との整合性を考慮しつつ、協力を実施する。

### 産業振興とビジネス環境整備を通じた持続的経済開発とインクルーシブな社会開発

#### 持続的経済開発

- ・ **主要農畜産品バリューチェーン環境整備**  
→ バリューチェーン構築のための持続可能な農牧業開発
- ・ **経済・社会インフラの充実**  
→ 国土開発・域内統合のための経済インフラ整備  
→ 産業開発

#### 社会開発

- ・ **社会サービスの充実**  
→ 水・衛生改善  
→ 栄養改善・プライマリーヘルスケア  
→ 障害と開発



# パラグアイに対する日本の開発協力（ODA）概要

## ◎主要農畜産品バリューチェーン環境整備

### ・バリューチェーン構築のための持続可能な農牧業開発

・農畜産品の生産から流通、検査、輸出に携わる関連機関の体制・能力・施設強化を図り、パラグアイのバリューチェーンを構築し、小規模農家を含めた生産者の生計向上とともに、国際市場における信頼を獲得・維持するための協力を展開している。

パラグアイ家畜衛生対策及び動物由来産品検査サービス向上プロジェクト



農牧バリューチェーン強化プロジェクト



酪農の持続可能な発展をめざすネットワークを活用した酪農家支援体制構築プロジェクト



コミュニティ開発（JOCV）

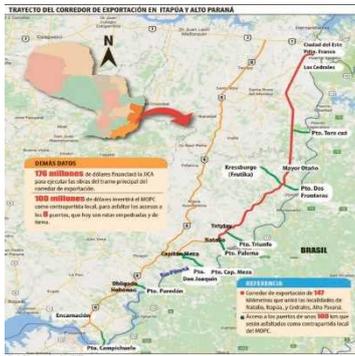


## ◎経済・社会インフラの充実

### ・国土開発・域内統合のための経済インフラ整備

・経済インフラに関して、南米インフラ統合の動向や、米州開発銀行（IDB）等他ドナーの案件との協調も視野に入れつつ、主要幹線道路・地方道路の整備等を中心に、維持管理に係る公的機関の能力強化に向けた協力や安定的な電力供給のための支援を展開している。

東部輸出回廊整備計画



地方道路整備計画



アスンシオン送配電網整備計画



# パラグアイに対する日本の開発協力（ODA）概要

## ◎経済・社会インフラの充実

### ・産業開発

・近年、パラグアイでは生産コストや制度・税制等の優位性から、メルコスール市場への輸出を前提とした自動車部品産業等、製造業の進出が進んでいるが、各種専門分野の技能人材の不足が課題となっている。このため、労働・雇用・社会保障省職業訓練局（SNPP）傘下の「日本パラグアイ職業能力促進センター」をモデルセンターとして、5Sカイゼン手法の導入や「工場管理」の訓練コース新設、官民連携の新たなプラットフォーム「製造業セクター委員会」の設立等をしてきた他、教育科学省管轄の学校にも高度技能人材の育成に向けた取組を展開している。

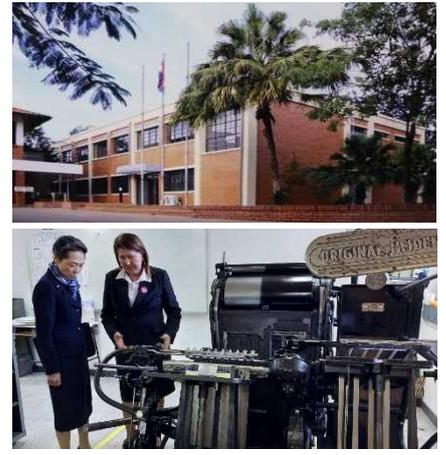
産業界のニーズに応える  
高度技能人材育成プロジェクト



日本パラグアイ職業能力促進センター



パラグアイ職業訓練センター



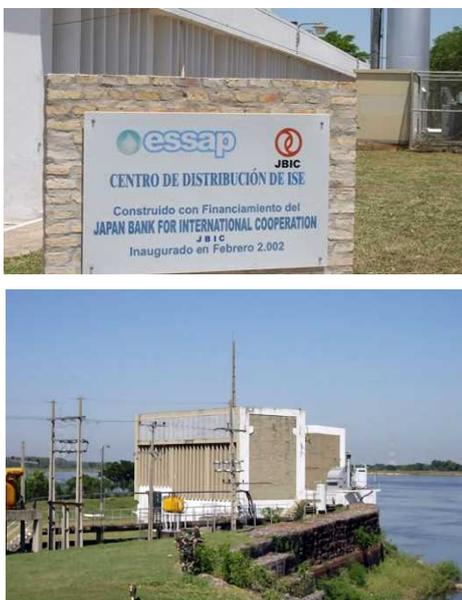
※現、カルロス・アントニオ・ロベス職業訓練センター・工業高校

## ◎社会サービスの充実

### ・水・衛生改善

・アスンシオン首都圏及び地方都市の上下水道整備の現状改善を優先的に図る。有償資金協力、無償資金協力による施設整備とともにパラグアイ衛生サービス公社（ESSAP）等の水・衛生関連サービスを提供する公的機関の人材育成及び組織能力強化の取組を展開している。

アスンシオン上水道整備計画



コリャ・パイト市給水システム改善計画



コンセプション市及びピラール市給水システム改善計画



# パラグアイに対する日本の開発協力（ODA）概要

## ◎社会サービスの充実

### ・ 栄養改善・プライマリーヘルスケア

・ 「非感染症疾患」予防のため、小児の健康促進や食事の栄養バランスの改善を目指した協力を展開している。プライマリーヘルスケアにおいては、研修モジュールに栄養改善の視点を盛り込み、日本の官民連携の取組である「栄養改善事業推進プラットフォーム」の動向を注視し、民間連携も視野に入れた協力を進めていくこととしている。

経済社会開発



栄養改善アドバイザー



プライマリーヘルスケア体制強化アドバイザー



### ・ 障害と開発

・ 様々なセクターで障害者の社会参加が進むことを目指すと同時に、アクセシビリティ改善に向けた実効的な取組を支援する。技術協力やボランティア等の複数のスキームを有機的に連携させ、効果的な支援を実施する。

障害者の社会参加促進アドバイザー



障害者・児支援（JOCV）



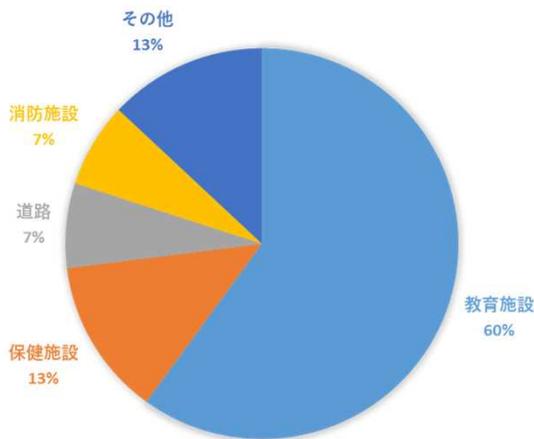
# パラグアイに対する日本の開発協力（ODA）概要

## ◎その他

### ・地域コミュニティ

- ・ 受益者となる住民に直接届く協力として、小学校や保健ポストの建設、道路や水道整備、消防施設の建設など、毎年10件程度の協力を実施している。
- ・ 1989年以降、400件以上、約3億円の支援実績を有し、主に教育施設（60%）、保健施設（13%）、道路（7%）、消防施設（7%）の整備を行っている。

分野別支援実績（割合）



## 3. 統計データ

### ①日本の対パラグアイ援助形態別実績（年度別）

単位：億円

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
2017年	-	1.53	7.86
2018年	-	12.82	7.45
2019年	-	13.98	8.08
2020年	91.30	10.65	4.25
2021年	92.94	2.11	6.87
累計	1,732.13	403.21	908.57

### ②諸外国の対パラグアイ経済協力実績

（支出総額ベース 単位：百万ドル）

年度	1位	2位	3位	4位	5位
2016年	日本 32.02	米国 19.03	韓国 8.09	スペイン 4.48	ドイツ 3.94
2017年	日本 23.29	米国 22.36	韓国 12.35	スペイン 10.90	ドイツ 5.35
2018年	日本 39.50	米国 18.51	韓国 14.05	スペイン 11.67	ドイツ 6.34
2019年	日本 56.00	米国 16.32	韓国 14.23	スペイン 10.56	ドイツ 5.05
2020年	韓国 65.44	日本 53.44	フランス 43.01	米国 26.71	スペイン 7.89

出展）OECD/ DAC

出展）外務省ホームページ「政府開発援助（ODA）  
国別データブック」